手紙

慶応三年五月二十八日　お龍あて

坂本龍馬

青空文庫

其後ハ定而御きづかい察入候。

しかれバ先ごろうち、たび〳〵紀州の奉行、又船将などに引合いたし候所、なにぶん女のいゝぬけのよふなことにて、度々論じ候所、此頃ハ病気なりとてあわぬよふ（に）なりており候得ども、後藤庄次郎と両人ニて紀州の奉行へ出かけ、十分にやりつけ候より、段々義論がはじまり、昨夜今井・中島・小田小太郎など参り、やかましくやり付候て、夜九ツすぎにかえり申候。昨日の朝ハ私しが紀州の船将に出合、十分論じ、又後藤庄次郎が紀州の奉行に行、やかましくやり付しにより、もふ〳〵紀州も今朝ハたまらんことになり候ものと相見へ、薩州へ、たのみニ行て、どふでもしてことわりをしてくれよとのことのよし。薩州よりわ彼イロハ丸の船代、又その荷物の代お佛候得バ、ゆるして御つかハし被成度と申候間、私よりハそハわ夫でよろしけれども、土佐の士お鞆の港にすておきて長崎へ出候ことハ中〳〵すみ不申、このことハ紀州より主人土佐守へ御あいさつかわされたしなど申ており候。此ことわまたうちこわれてひとゆくさ致候ても、後藤庄次郎とともにやり、つまりハ土佐の軍艦もつてやり付候あいだ、けして〳〵御安心被成度候。

先ハ早　かしこ。

五月廿八日夕　　龍

鞆殿

猶、先頃土佐蒸気船(ジョウキセンユウガフ)夕顔と云船が大坂より参り候て、其ついでに　御隠居(ごよふごふさま)様より後藤庄次郎こと早々上京致し候よふとの事、私しも上京してくれよと、庄次郎申おり候ゆへ、此紀州の船の論がかた付候得バ、私しも上京仕候。此度の上京ハ誠ニたのしみニて候。しかし右よふのことゆへ下の関へよることができぬかもしれず候。京にハ三十日もおり候時ハ、すぐ長崎へ庄次郎もともにかへり候間、其時ハかならず〳〵関ニ鳥渡(ちよつと)なりともかへり申候。御まち被成度候。○おかしき咄(はな)しあり、お竹に御申(おまうし)。直次事ハ此頃黒沢(クロサワ)直次郎と申おり候。今日紀州船将(センシヨウ)高柳楠之助方へ私より手がみおや候所、とりつぎが申ニハ高柳わきのふよりるすなれバ、夕方参るべしとのことなりしより、そこで直次郎おゝきにはらおたてゆうよふ、此直次郎昨夜九ツ時頃此所にまいりしニ、其時高柳先生ハおいでなされ候。夫おきのふよりるすとハ此直次郎きすてならずと申けれバ、とふ〳〵紀州の奉行が私しまで手紙おおこして、直次郎ニハことわりいたし候よし。

おかしきことに候。かしこ〳〵。

此度小曽清三郎が曽根拙蔵(セツ)と名おかへて参り候。定めて九三の内ニとまり候ハんなれども、まづ〳〵しらぬ人となされ候よふ、九三ニも家内ニもお竹ニも、しらぬ人としておくがよろしく候。

後藤庄次郎がさしたて候。かしこ〳〵。

青空文庫情報

底本：「龍馬の手紙」宮地佐一郎、講談社学術文庫、講談社
2003（平成15）年12月10日第1刷発行
2008（平成20）年9月19日第7刷発行
※底本手紙の写真のキャプションに、（京都国立博物館蔵）とあります。
※丸括弧付きの語句は、底本編集時に付け加えられたものです。
※直筆の手紙の折り返しに合わせた改行は、省いて入力しました。
入力：Yanajin33
校正：Hanren
2010年8月26日作成
2011年6月17日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

手紙

慶応三年五月二十八日　お龍あて

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

著者　　坂本龍馬
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/